

〈教育ノート〉

社会福祉援助技術演習における 自己の振り返りの意味についての考察

片 山 弘 紀*

Consideration on meanings to look back at the self Seminar
in Social Work Practice

Hiroki Katayama

要旨：本研究では、授業において自己を振り返ることの意味について再検討するものである。昨年、社会福祉援助技術演習において、毎回、自己の振り返りをする時間をもった。そして、授業で自己を振り返ることを学生自身がどのように捉えているのかについて知るためにアンケート調査を行った。その結果、授業において自己を振り返ることは、授業内容の定着や自己への気づきといった意味があることが示された。ただ、振り返りシートの質問項目や量などの課題も出たため、今年の授業では、質問項目や量を変えて自己の振り返りを行った。

全授業終了後、アンケート調査を行った結果、前回の調査と同様に学生に授業内容を定着させ、自己を見直すきっかけとなっていることが分かった。また同時に、書く力を養う契機ともなっていることも分かった。

本調査によって、このように授業において自己を振り返ることは、授業内容の定着や自己への気づき、そして、書く力を養うといった意味があることが示された。

Abstract : In this study, I reconsider meanings to look back at the self in a class. A questionnaire shows that looking back at the self in a class is effective in rooting the contents of the class, realizing the self, and nourishing the ability to write.

Key word : 社会福祉援助技術 Social Work Practice

はじめに

授業において自己を振り返る機会を持つことは重要である。なぜなら、授業で体験したことや感じたことを思い起こすことで、新たに発見することや気づくことがあったり、どのようなことを学んだのかといった授業内容の確認ができたりすることができるからである。このた

め、社会福祉援助技術演習において毎回、自己の振り返りをする時間をもった。そしてこのプロセスを通じて、自己を振り返る意味について、学生自身がどのように捉えているのかを知るために昨年、アンケート調査を行った。その結果、授業において自己を振り返ることは、授業内容の定着や自己への気づきといった意味があることが示された¹⁾。ただ、振り返りシー

*関西福祉科学大学 非常勤講師

トの質問項目や量などの改善が指摘されたため、より振り返り易い環境作りが必要となった。

今回は、より自己を振り返り易くするために、振り返りシートの質問項目や量を変更して、再度、自己の振り返りをする時間をもった。

振り返りの方法として、前回と同様に振り返りシートを用いながら進めていった。授業冒頭の時間を使い、前回から今回にかけての日常生活で気づいたことを振り返りシートに記入をさせる。授業の最後には、授業について学んだことや気がついたことについて振り返りシートに記入をさせる。このようなプロセスを経て、自己の振り返りを進めていくのである。

本稿では、この振り返りを行うことが学生にとって、どのような意味をもたらしたのかについて、アンケート調査を基に再度、考察を行う。

I 目 的

授業内容の定着と自己への気づきを深めることを目的とし、振り返りシートの質問項目を前回の結果を基に改定し授業において自己の振り返りを行った。この取り組みが、どのような意味を学生にもたらすのかについて考察する。

II 方 法

1. 調査対象と調査方法

調査対象は、社会福祉専攻の学生で筆者の社会福祉援助技術演習 I を受講した 1 クラス 17 名。

前期授業終了後、その場で振り返りについてのアンケートを配布、回収を行い、全員から回答を得た。

2. 調査項目

調査項目として、授業内容に対する振り返りシートの記入、前回から今回までの振り返り、振り返りの共有、振り返りシートの内容、振り返りシートの内容の良かった点・改善点、授業での振り返りの効果についてであった。

表 1 (振り返りシート)

振り返りシート	
1.	前回から今回までどんな気づきや発見、体験、起きてきたことがありましたか？ (どんな些細なことでもかまいません)
2.	今日の授業を通じて振り返りを行ってください。 ・今日の学びは何ですか？ ・今日の気づきや発見は？ ・今日、あなたがメンバーに対して貢献したことは？ ・日常生活に今日の気づきや学びを生かすとしたら何をしますか？ ・その他思ったこと、感じたこと、見えてきたこと、書いておきたいことは？

なお、「振り返りシートの内容の良かった点・改善点」、「授業での振り返りの効果」については自由記述で行った

3. 振り返りシートの内容 (表 1)

授業において、表 1 の振り返りシートを用いた。

III 結果と考察

1. 授業終了後の振り返りシートの記入の意味について (表 2)

「授業終了後の振り返りシートの記入の意味」について「とてもある」13 人 (76%)、「ややある」4 人 (24%) と答えている学生がすべてを占めている。これは前回の調査の結果と同様で、振り返りシートを記入することは意味があると思う学生が多いことが分かる。

その理由としては、「自分を見直せる」「授業

表 2 授業終了後の振り返りシートの記入の意味について (人)

とてもある	ややある	どちらともいえない	あまりない	全く無い
13(76%)	4(24%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)

の確認」といった授業の復習になっていることや、「記録を書くことが実習で役に立つ」といった書く練習となっていることをあげている。

このことから、授業終了後に行う振り返りシートを記入することは、学生にとって授業の復習や書く力を養うといった意味があることが分かる。

2. 授業の前半で、前回から今回まであったことについて振り返りをし、振り返りシートに記入をすることの意味について（表3）

「毎回、授業の前半で、前回から今回まであったことについて振り返りをし、振り返りシートを記入することの意味」について、「とてもある」11人（65%）、「ややある」5人（29%）と答えた学生が9割を占めている。前回の調査結果でも8割を占めている。その理由としては「日常生活において自分の状態を意識できる」といったものが多く、その他「自分を振り返る機会となる」「日常生活にはりがでる」といったものがあげられた。

これは、振り返りシートの質問項目に新たに日常生活を意識した項目を入れたことが効果として現れているように思われる。

一方、「どちらともいえない」1人（6%）で、「書く話題に困る」がその理由であった。

授業の前半に、日常生活を振り返ることは前回の調査結果と同様に意味があると思っている学生が多くいることが分かる。

表3 前回から今回までの振り返りの意味（人）

とてもある	ややある	どちらともいえない	あまりない	全く無い
11(65%)	5(29%)	1(6%)	0(0%)	0(0%)

3. 匿名にて振り返りシートの内容を授業の前半に講師が発表し、個人の振り返りを全員で共有することの意味について（表4）

「個人の振り返りを全員で共有することの意味」について、「とてもある」7人（41%）、

「ややある」8人（47%）と答えた学生が8割強を占める。前回の調査結果では9割弱とほぼ変わらない。その理由として、「他の意見や価値観を知ることができるから」が多く、次にそのことから、「自分との違いが見出せる」「刺激になる」「親近感がわく」といったことがあげられた。他者のことを知ることによって新たな自己に気づく契機となっている。

一方、「どちらともいえない」1人（6%）、「あまりない」1人（6%）であった。その理由として、「意味があつたりなかつたりする」「興味がないことに対しては無関心」があげられた。少数意見ではあつたが共有する振り返りの内容によって個人差があることが分かった。

個人の振り返りを全員で共有することは、他の参加者の意見や価値観を知ることができる機会となっている。そして、更にそこから自分に対してさまざまな触発を与えていることが分かる。

表4 振り返りの共有（人）

とてもある	ややある	どちらともいえない	あまりない	全く無い
7(41%)	8(47%)	1(6%)	1(6%)	0(0%)

4. 振り返りシートの内容の良かった点、改善点について（表5、6）

良かった点、改善点について要約をすると、良かった点（表5）については、「質問項目」と最も多く、次に「自分を見直せる」3人、「学びの整理、確認、発見」3人であった。

一方、改善点としては「質問項目の選択性」2人、「質問項目」2人であった。

表5 振り返りシートの良かった点

質問項目の内容	15人
学びの整理、確認	3人
自己を見直せる	3人
その他	3人

表 6 振り返りシートの改善点

質問項目を選択性にしてほしい	2 人
質問項目の内容	2 人
時間が少ない	2 人

表 7 授業における振り返りの効果

自分を見直せる	6 人
授業内容が身につくやすくなる	4 人
書く力がつく	4 人
その他	4 人

前回の調査結果の改善点として多かった「質問項目の類似」や「質問項目の量が多い」が今回はなく、また、前回と比べ改善点の数も少なかった。これは前回の振り返りシートの内容が、より最善な形になってきているように思われる。

5. 振り返りの時間を授業において持つことに関する効果について

意見を要約すると、「自分を見直せる」6人で最も多く、次に「授業内容が身につくやすくなる」4人、「書く力がつく」4人といったことがあげられた。

「自分を見直せる」、「授業内容が身につくやすくなる」は前回の調査結果でも上位に上がっており、これらのことから振り返りの時間を持つことが自己への気づきや授業内容の定着となっている効果が伺える。また、前回の調査結果ではなかった書く力がつくといった意見は新たな効果として見るができるであろう。

Ⅳ まとめ

本研究は、今年の調査を基に更なると自己への気づきと授業内容の定着を深めるために、振り返りシートの内容を変更し、授業において自己の振り返りをする意味について再検討することを目的としたものである。

調査結果から、振り返りをする事は、授業

の復習や自己を見直すことの意味があると思った学生が多くいたことが分かった。そして、更に今回の特徴として、実習で記録を書く際に役に立つといった書く力をつける意味が増えた。また、個別の振り返りをクラス全員で共有することは、他者との意見や価値観の違いを知ることやその違いから更に自己を見つめ直すきっかけになっていることも分かった。これらの結果は前回の調査結果と類似しており、改めて授業において自己の振り返りをする事に意味があることがうかがえる。

振り返りシートの質問項目については、前回の調査結果で学生から指摘された「質問項目の類似」や「質問項目の量が多い」といったことを踏まえ、質問項目を変更したため、昨年のような改善点の指摘はなかった。一方、新たに加えた質問項目によって多少の意識の変化があったように思われる。特に日常生活における自己について意識をむけることができるようになった意見が多かったことは意義深い。このことから、より最善に近づいた振り返りシートになってきているように思われる。ただ、他者への貢献という項目を今回新たに特記したが、それに関しては特に効果として現れていることが今回の調査結果からでは分からなかったため、継続的にこの項目の効果については観察していく必要がある。

振り返りの効果については、「自分を見直せる」、「授業内容が身につくやすくなる」は前回の調査結果と類似し、それに加え、今回は「書く力がつく」といった意見が目立ったことから、振り返りの時間を持つことが自己を見直すことや授業内容の定着、書く力の向上に繋がる効果があることがうかがえる。

このようにみえてくると、授業において自己の振り返りをする事は、前回の調査結果と同様に自己を見つめ直すことや授業内容を身につけるきっかけとなっている。また、書く力を培う効果があり、現場実習に向けての基礎学力の構築としても意味があることと考えてよいのでは

ないだろうか。またそれは、社会に出てから、日々の業務に忙殺され自己を見失うことを防ぎ、よりよい仕事を遂行できるセンス養うことへと繋がるのではないかと思うのである。

引用文献

- 1) 拙稿「授業における自己の振り返りに関する研究－社会福祉援助技術の授業を通しての考察－」『関西福祉科学大学紀要』第9号、P 287-291

2006年

参考文献

- 人間教育研究協議会編『振り返り－自己評価の生かし方－』、金子書房、1996
- 岡本晴美「『社会福祉援助技術演習』における学生支援に対する一考察」、福祉教育開発センター紀要、2004
- 山田 容『ワークブック社会福祉援助技術演習① 対人援助の基礎』、ミネルヴァ書房、2003

